

小学校・第4学年・図画工作科 いくつかの海をこえて（立体に表す） ①

学習のめあてをもつ

表したいことを見付ける

どのように表すか考える

表し方を工夫して表す

さらに工夫して表す

鑑賞する

振り返り

題材の目標

感じたこと、想像したことから表したいことを見付け、前学年までの粘土についての経験を生かして手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫して表すとともに、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて感じ取ったり考えたりし、進んで自分が想像した海での冒険の様子を、表現したり鑑賞したりする活動に取り組む。

ICT活用のポイント

本事例では、ICT端末を使って、作品が変化していく様子（試しの活動ややり直しも含む）をタイムラプス動画で航海日誌として記録していく。出来上がった作品だけを見るよりも、変化を連続したものとして視覚化できるため、形が変化していくことのよさや面白さに気付きやすくなる。

事例の概要

本題材では、船に乗って冒険している海の様子を、粘土を使って、次々と変化させながら表していく。「いくつかの海をこえて」という題材名には、夢や願いを思い描くことや、進んで形を変化させることを楽しんでほしいという願いが込められている。

児童は、始めに船に乗り込む自分を紙を使って表し、いくつかの海を冒険するイメージをもつ。次に、自分がイメージした海をどのように変化させていくか考え、表し方を工夫して表していく。途中でタイムラプス動画を再生し、自分や友達の作品の造形的なよさや面白さ、表し方などについて、感じ取ったり考えたりする。そして、更に工夫したいことを考え、表し方を工夫して表す。最後に、タイムラプス動画や作品を見合い、互いの表現のよさを交流して、自分の見方や感じ方を広げる。

小学校・第4学年・図画工作科 いくつもの海をこえて（立体に表す）②

【表現の過程を自分で撮影】



【ICTを活用する際の指導の工夫】

- ・児童は、表している過程で新しい発想が生まれ、新たな試みをしてしようとするが、できた形を変えていくことに抵抗感をもつ場合もある。ICT端末を活用し、表現の全ての過程を記録に残すことで、楽しんで作品を変化させていくことができるだろう。その際、録画の開始や停止、保存、再生などの方法をわかりやすく示し、児童が自分で操作できるようにしていくことが必要である。
- ・タイムラプス動画を活用することで、だんだんと波が高くなったり、海面が細かい模様で埋まっていったりするなどの変化の様子を連続して見ることができる。この変化していく様子について、どのように感じたのか、思ったのかの根拠や理由を形や形の感じなどを基に話したり、適切な人数で話し合ったりするなど、児童自身が気づきを自覚できるような指導の工夫が考えられる。

【ICT活用のメリット】

- ・タイムラプス機能またはコマ送り機能を活用することで、想像力を働かせて発想や構想をし、前学年までの造形活動の経験を生かして表し方を工夫したり、見方や感じ方を広げたりする上でも図画工作科の学習を充実させることにつながる。

【活用したソフトや機能】

写真・動画撮影機能（タイムラプス機能またはコマ送り機能）

※タイムラプス機能がない場合、動画の再生バーを手動で進めることで
代用可能（コマ送り機能）